

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C141	17-304	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳) Randomized open-label trial of baclofen for relapse prevention in alcohol dependence. アルコール依存再発予防のためのバクロフェンの無作為非盲検試験。		
執筆者 Gupta M ^{1,2} , Verma P ² , Rastogi R ² , Arora S ^{3,4} , Elwadhi D ¹ .		
掲載誌 Am J Drug Alcohol Abuse. 2017 May;43(3):324-331.		
キーワード		PMID:
バクロフェン、GABA 拮抗剤、アルコール依存症、渴望、再発予防		27808555
要旨 <p>アルコール依存症は、飲酒レパートリーの狭さ、顕著な飲酒の仕方、耐性と離脱現象、飲酒衝動、逆戻りの繰り返しによって特徴づけられる進行性慢性障害である。バクロフェンは断酒を促進し、飲酒渴望を減らし、アルコール依存症者の不安を減らすことが示されてきた。そして、それは有用な薬剤であることを約束するが、臨床データは現在のところ制限されている。</p> <p>目的 本研究は、アルコール依存症被験者で再発率を改善する際にバクロフェン(GABA アゴニスト)の有用性を試験することを意図した。</p> <p>方法 合計 122 人のアルコール依存症被験者は 2 つの群にランダム化され非盲検デザインでバクロフェン(30mg/日)または benfothiamine (栄養サプリメント)が投与された。両群は短い動機付け介入を受けた。被験者は主要評価尺度を 0、2、4、8、12 週に評価された:主要評価尺度は最初の逆戻りまでの時間、暴飲した日数、断酒期間の累計と(Obsessive Compulsive Drinking Scale (OCDS)で測定される)渴望であった。</p> <p>結果 72 人の参加者はバクロフェンを、50 人は benfothiamine を投与された。バクロフェンの投与群は、benfothiamine 群(p < 0.05)に比べて有意に断酒日数が多かった。暴飲日のパーセンテージはバクロフェン群(p = 0.001)で有意に低かった。渴望と不安のスコア(Hamilton Anxiety Rating Scale による)は、対照群(p = 0.001)に比べてバクロフェン群で有意に低かった。最初の逆戻りまでの時間は両群で差を認めなかった。</p> <p>結論 この非盲検試験でバクロフェンの投与を受けたアルコール依存症者は benfothiamine の投与を受けた者に比べて測定した飲酒の指標において有意な改善を示した。本研究はバクロフェンがアルコール依存症の治療に役立つという更なる証拠を提供する。</p>		